

2019年度 学 校 総 合 評 価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校は「質実剛健」「自主自律」の校風のもと、生徒の進路実現を着実に図るとともに、「ふるさとに誇りと愛着をもったグローバル・リーダーの育成」に取り組んでいる。生徒の優れた能力を引き出し、主体的に学校生活を過ごすことができるよう、方策としては5つのアクションプランを定めて教育活動を行ってきた。スーパーグローバルハイスクール(SGH)としての事業は昨年度で終了したが、事業の1つであった生徒海外派遣は今年度も継続し、海外の大学生や高校生との交流を通してグローバルな視野の育成を図っている。また、従来から行っていた探究科学科の生徒による三校合同課題研究発表会(富山高校・富山中部高校と本校が合同で開催する)に加え、2学年普通科では、総合的な学習の時間にSDGsをテーマにグループでの課題研究に取り組みせ、12月には校内発表会(外部に公開)を行った。これまで行ってきた探究科学科での指導を、普通科においても、生徒の実態に合わせて効果的に行うことができた。

各重点項目の取り組み状況は、以下のとおりである。

教員の教科指導力向上に向けての取り組みは、従来から行っている校内互見授業に加え、今年度も公開授業を実施した。その際に開かれた教科別協議会では、各教科における課題や今後の授業改善に向けての提案が話し合われ、課題の共有化が図られた。加えて、今後の世代交代を見据え、これから学校の中核となっていく若手教員を対象として、中堅教員が主催する、面談・作問・添削指導力の向上を目的とした研修会も行われている。このように、授業改善に向けて学校全体で取り組もうとする機運の高まりがみられる。

進路支援では、生徒の学習に対する動機付けの一環として、地域の社会人や本校卒業生の協力のもとに職業理解講座、大学学部学科紹介等を実施した。また、どの学年においても、時期に応じて担任による面談を丁寧に行うとともに、面談内容がより生徒に適したものになるよう、校内で入試問題研究会等を行い教員の指導力向上を図っている。

学校生活では、家庭環境の多様化で、様々な特性を持つ生徒が増加していることから、教科指導や進路指導において、個に適した対応や支援のあり方が必要となっている。このような状況に対応するため、教員を対象とした研修会を持ち、スクールカウンセラーから生徒・保護者との面談の仕方など具体的な対応を学んだ。また、学校不適応傾向を示す生徒に対しては、カウンセリングによる継続的な支援を行っている。

特別活動については、生徒へのアンケート結果によると、部活動の実績や結果についての満足度が昨年度より低くなっている。一方、自分自身の部活動への取り組みについては、高い充実感を得ることができているようである。図書委員会の活動では、従来から行っている文化講座やビブリオバトルを今年度も開催した。また、生徒図書委員による広報活動や教科における図書館の利用増加で、図書の貸出冊数が順調に伸びている。

生徒の課題研究や探究活動は、大学や外部機関の協力が生徒の積極的な活動の支えとなっている。特に今年度は、大学の協力により、当初予定していなかった英語で行うプレゼンテーションの指導を受けることができた。

7 次年度へ向けての課題と方策

教育活動の課題と方策を重点目標ごとに順に検討していく。

学習に関しては、学ぶ意義や学び方、探究の手法を生徒に理解させ身につけさせるとともに、振り返りの機会や他者と協働して物事に取り組む機会を増やしたい。また、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、今後も、互見授業や研修会により授業改善に向けて全校体制で取り組みたい。

進路支援では、3年間を見通した指導と、入試制度の変更等に関する正確な情報に基づいた指導はもとより、学習習慣や学習内容の定着の度合い、成績状況をより正確に把握し、個々の生徒に応じた指導、支援を探りたい。

学校生活では、基本的な生活習慣の確立及び規範意識の向上がしっかり図られるよう今後も取り組む。また、生徒の悩みには複雑な要素が絡んでいることから、「主体的な自己管理(メンタルヘルス)」について意識の醸成を図る手法を工夫し、様々な特性を持つ生徒にも対応できるよう研修の充実を図りたい。

特別活動では、学校行事の事後アンケートを生徒にも行い、より良い取り組みを目指すとともに、部活動の質が高まるよう、トレーニングエキスパートの活用を促したい。

探究活動については、大学や外部機関との連携を図り、また、実践成果を外部に発表する機会を確保することで、生徒の意欲をさらに高めたい。

以上、今年度の取組全体については、学校評議員を含め、校内外の意見を参考に、生徒の自主性を引き出すために何が必要か考え、校内でさらに検討を加えながら教員間で課題の共有化を図り、指導を工夫することが必要と考えている。

8 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

2019年度 高岡高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	自律的で主体的な学習者を育むための学習指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> これまで本校の生徒は、授業を大切にし、与えられた課題にきちんと取り組む姿勢が見られた。しかし近年、学習習慣が十分に身につけていない生徒が増えているという声がきかれる。また、積極的に質問を行い、納得いくまで理解しようとする姿勢の生徒が減っているとの声もきかれる。今後の、変化の激しいと予想される社会で活躍するためには、自律的に主体性を持って他と協働して物事に取り組む姿勢がますます重要になる。 このような生徒の育成のためには、1年次には、まず学習習慣を身につけさせることが重要となる。また3年間を通して、生徒の自主性を育み、協働して物事に取り組む経験も必要となる。さらには教員側も現在の生徒に適した指導方法を研究し実践することも大切である。 	
達成目標	①②学習課題への取組アンケート(1, 2年生)における生徒の学習意欲の向上	③互見授業の実施
	①計画的な学習習慣を身につけ、自己の学習活動を振り返って次につなげている。80%以上 ②疑問点は友人や先生に質問して理解をした。80%以上	③2回以上授業見学し、「効果的な授業」について研究する教諭80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間調査を行い、生徒の取り組み状況を把握及び分析する。 互見授業を2学期に3週間行う。TKRや課題研究を行っている授業、ICTを活用する授業などの時間と教室を全教員に案内し、参加率を上げる。 「互見授業」を通して得られた「効果的な授業」のポイントについて簡単なレポートを教員各自が作成する。 新たに導入された総合的な探究の時間において、探究的活動の充実をはかる。 今年度から2学年普通科で2単位実施されることになった総合的な学習の時間において、自主性と協働して取り組む姿勢を育てる。 	
達 成 度	①計画的な学習習慣が身につけている。 61%(1年55%、2年52%、3年76%) 昨年60% ②疑問点は先生や友達に質問して解決している。 84%(1年85%、2年81%、3年87%) 昨年79%	③校内の互見授業で2回以上見学した教諭 86.0% 昨年 87.7%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間調査で生徒の実態を把握(1・2年生は定期考査前、3年生は1学期中間考査前に実施) 2学年普通科の総合的な学習の時間でSDGsに関する課題研究活動を実施し、成果発表会(公開)も行った。 	学校全体で「授業改善のための教員研修」を引き続き実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 公開授業(10月28日) 互見授業期間(2学期 3週間) 教科別研修会(互見授業後)
評 価	B	
	①前年と大きな違いはなかった。 ②特に、1・2年で割合が上昇した。 昨年度79%→今年度84%	公開授業・互見授業・教科別研修会などを通して、「確かな学力を育む授業」について研修した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 学習の計画性と成績の向上に相関性が認められるか、調査する必要があると思う。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ意義や学び方、探究の手法を生徒に理解させ、身につけさせる。 振り返りの機会や他と協働して物事に取り組む機会を増やしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性を引き出すために何が必要か考え、教員間での検討と課題の共有化を図り、実践する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2019年度 高岡高校アクションプラン - 2 -

重点項目	進路支援	
重点課題	高い意識を持たせる進路指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 大学への進学意識は高いが、その目的が明確でないことや成績が伴わないことから、安易な進路目標を設定する生徒が見受けられる。文理分けの際に、教科の得手不得手のみを材料にしたり、仕事内容を考えずに資格が取れるからを理由に決定する生徒も少なくない。また、志望大学決定の際に、現段階の学力で入学できそうな大学を探す傾向も見受けられる。高い志望を実現させるため、それに見合う学力・資質を身につけさせ、生徒の進路実現を継続的に支援する必要がある。 	
達成目標	①面談による指導の回数 (進路意識を高揚させるもの)	②志望校合格率 (出願時の志望校合格者の割合)
	①各学年 年 5 回以上	②合格率 58%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望を踏まえ、生活実態調査や通年成績表等を分析することにより、生徒の実態を正確に把握し、適切な面接指導を行う。 外部講師による職業理解講座を通して望ましい職業観を醸成させ、文理や学部学科選択に役立たせる。 卒業生による学部学科紹介を通して大学での学問を深く知るとともに、高校での学習に対する強い動機付けとする。 入試問題研究を十分に行い、授業力を向上させ、生徒の学力養成に生かす。 3年生の個別指導(教科添削、小論文指導等)を通して、生徒一人一人に応じた学力の伸長を図る。 校内模試や外部模試、前年度入試結果等の情報収集・分析により、志望校選択を支援する。また、必要とする卒業生に対しても、積極的かつ継続的に進路支援を行う。 	
達 成 度	①担任による面談 100% (全担任が 6 回以上実施)	②国公立大学前期合格率 54% (参考) H30 年度 44%
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 各学期ごとに面談による指導を実施し、また考査前後や文系理系の選択、科目選択、志望校選択等に向けて必要に応じた面談を行い、進路意識を向上させるよう指導した。 指導力向上に向けた自主研修を実施した。 面談力向上研修(7月) 	<ul style="list-style-type: none"> 各種講座の実施や添削指導、生徒の学習状況・成績・志望に関するの情報交換等、第 1 志望校合格に向けて学校全体で取り組んできた。 情報交換会、進路判定会、入試問題研究会等 出願検討の際に基礎資料として用いる校内模試について、作成検討会を実施した。 指導力向上に向けた自主研修の実施 作問研修(12月)、添削指導研修(3月)
評 価	A	B
	<ul style="list-style-type: none"> 教員の面談力向上が生徒の進路意識を高める指導につながるよう、進路指導部と各学年の連携がとれた。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年、一昨年と比べ、大きく改善した。 各自主研修、出願校の検討等の効果があったものとする。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 職業を意識した進路選択が必要という声もあるが、早期の職業設定は視野を狭めてしまうこともあるので、何を基準に進路選択をするかは難しい。 	
次年度へ 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した指導及び入試制度の変更等に対応した正確な情報に基づいた指導を行う必要がある。 学習習慣や学習内容定着の度合いに応じた指導及び面談による指導・支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力、判断力、表現力を問う新傾向の問題が増加しており、個々の大学について精査し、それに対応した指導を行う必要がある。 生徒の成績状況をより正確に把握し指導に役立てるため、教員の成績データを分析する力量を向上させる必要がある。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

2019年度 高岡高校アクションプラン - 3 -

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・不適応傾向の早期把握と問題発生の予防 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活を営む上で重要な、基本的なマナー・規範意識を身につけずに来ている生徒が増えている。規範意識を高めることはもちろん、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を高めていく取り組みが重要である。また、自己の生活習慣の見直しを指導し、他人を思いやる気持ちを育て、いじめの防止にもつなげたい。 ・心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が毎年見られる。その実態と要因を早期に把握し、適切な支援を行うことはもとより、教育相談を保護者と全職員で行うという意識を高め、問題発生の予防を図っていく必要がある。 	
達成目標	①各種事故の発生件数減少と生徒の実態把握を目的とした声かけ	②スクールカウンセリング等の活用による適切な対応と保護者・全職員間の意識向上
	①登校時の校門指導週間 年6回	②教育相談だより発行 年10回 スクールカウンセリング等 年30回 教職員等対象研修会 年2回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の挨拶・服装・交通安全指導により、規範遵守の自覚を促す。 ・街頭での交通マナー遵守の指導や1年生対象に交通安全教室を実施。 ・「情報モラル・セキュリティに係る講演」や面談、集会での注意喚起により、トラブルの未然防止に努める。 ・被害状況調査を実施し、生徒の現状を正しく把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員対象の研修会で面談の仕方等を学ぶことで、生徒に寄り添いながら信頼関係を構築していくという姿勢を醸成する。 ・担任や学年との連携を密にして問題の早期把握に努める。 ・講演会や教育相談通信を通じて保護者に適切な情報を提供し、協力体制の構築に努める。
達成度	① 80%以上 ・登校時の校門指導週間 年5回 (春4月、衣替え6月、さわやか運動6月、秋9月、冬1月)	② 80%以上 ・教育相談だより発行 計10回 ・スクールカウンセリング 23回、その他7回以上 ・保護者対象講演会(10月・3月予定) ・教員対象研修会(4月2回・11月1回) ・生徒対象研修会(3年生・7月)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部による毎日の登校指導及び各学年も含めての校門指導週間で、挨拶や服装の指導のみならず生徒の登校する時刻や体調等の把握ができた。 ・さわやか運動では、保護者の協力も得て校門での指導および高岡駅での乗車指導を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の講演会及び教員・生徒対象の研修会の実施 「高校生の心理的成長とそれを促す保護者のありよう(保護者)」「面談の仕方(教員)」「保護者対応の基本(教員)」「合理的配慮とは(教員)」「自分の脳をつかひこなす方法とマインドフルネス(3年生生徒)」 ・「情報共有シート」「ケース会議」により教員間の情報共有に努めた。
評 価	A	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の協力を得て、学期ごとの挨拶等の校門指導や服装指導が十分できた。さわやか運動では、PTAの協力を得て実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修やケース会議により教員間の情報共有を図り、生徒・保護者の支援につなげた。SC等専門機関との円滑な連携に配慮した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・被害の有無が周囲の生徒に分からないような記入用紙になっているか。 ・悩みの根幹に向き合おうとすることは、生徒にとって必要である。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立及び規範意識の向上がしっかり図られるよう、今後も取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の悩みは複雑な要素が絡んでおり、「主体的な自己管理(メンタルヘルス)」への意識の醸成を図る手立てを工夫したい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2019年度 高岡高校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動と学校行事の充実 ・読書活動の推進と生徒図書委員会活動の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に部活動は活発に行われている。学習との両立をはかり積極的に取り組んでいるが、活動の質の良さや目的意識の明確性に欠けたり、部員数の減少により活動内容が不十分な部も見受けられる。 ・学校行事においては、体育大会、文化祭などがクラス内の団結力を高める良い機会になっている。生徒が、良い環境でよりよい充実感・達成感が得られるように工夫している。 ・読書への意欲は高いが、学習や部活動などのために時間の制約を受けがちである。日常的に読書に親しむ習慣を育て、普段から図書館へ来館するよう、より一層の教科との連携や蔵書の充実、推薦図書の拡充が必要である。 ・図書館の利用者を増やすため、生徒図書委員会の活動を活発化し、読書以外の面においても図書館に対する関心を高めたい。 	
達成目標	①部活動・学校行事に対する充実度や結果に対する満足度の向上	②図書貸出冊数の増加 ③文化講座と読書会の開催
	①充実度や結果に対する満足度 70%以上	②図書貸出冊数 1,848冊以上 ③文化講座と読書会の開催 年3回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の年間・月間活動計画を作成し計画的で質の高い活動を目指す。 ・行事そのものの内容を充実させ、準備作業を計画的に行えるようにする。 ・アンケートを実施し、充実度や満足度を確認し、指導に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科・英語科と提携して図書館でビブリオバトルを実施し、図書館の利用機会を増やす。また、ホームルーム活動での図書館利用推奨や推薦図書の掲示等、広報活動を積極的に行う。 ・生徒図書委員を文化講座と読書会の企画運営に積極的に関わらせる。また、学級文庫を管理させることで、クラスの読書活動の推進役であるという自覚を促す。
達成度	①部活動の実績・結果について 満足度 68.7% 昨年 82% 自分自身の部活動の取り組みについての充実感 89.3% 昨年 68.4% (アンケート結果より)	②図書貸出冊数 1,652冊(昨年度 1,572冊) ③・第1回文化講座(6/17) 「イクメン3教師が語る!!」 ・読書会(ビブリオバトル)(10/21) 『放課後はミステリーとともに』 ・第2回文化講座(11/18) 「秋を楽しむしおり作り」
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、各部・各クラスの代表者を集めて、各種活動についての打ち合わせを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇中の特別貸出し実施や生徒図書委員による広報活動で図書館利用者を増やしている。
評 価	C	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実績、結果については、満足度が低くなってしまったが、自分自身の取り組みについては充実感を得ることができているようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員による広報活動に生徒がよく応じており、順調に貸出冊数が伸びている。 ・国語科、芸術科(書道)、課題研究、総合など、教科における利用が増加した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・社会や地域の役に立つ人になるという意識を持つため、特別活動に社会奉仕活動 ・社会貢献活動等を取り入れてもいいかもしれない。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の質を高めるため、トレーニングエキスパートの利用を促す。 ・学校行事の事後アンケートを生徒にも行ない、よりよい取り組みを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の充実を図ると同時に、図書の推薦を積極的に行う。 ・各教科との一層の連携を図り、図書館利用を促進する。また、新聞の活用を進める。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2019年度 高岡高校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の進路実現への連結 ・保護者や同窓会との連携 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の大学との連携に加え、その他の外部機関との連携を図る必要がある。また、探究活動の実践成果を学力向上や進路実現につなげ、その成果を広げる体制づくりが必要である。 ・本校に対する保護者や同窓会、地域の期待は大きい。PTA総会や保護者対象の各種研修会への参加率はかなり高いと思えるが、この現状に甘んずることなく、本校教育活動の広報を一層推進する工夫が必要である。 	
達成目標	①課題研究・探究活動における大学や外部機関との円滑な連携	② PTA 総会や学年研修会等の出席率向上
	①大学との連携 年3回 外部機関との連携 年4回	② PTA 総会や学年研修会等の出席率 60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の課題研究や探究活動では、大学等との連絡を密にし、校内では、進路指導部や学年と連携を図り、探究活動や研修が学力向上及び進路実現につながる実効性あるものになるよう、内容の改善・充実を図る。 ・ホームページや探究通信、オープンハイスクールなどを活用し探究科学科の内容や魅力について紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の各種研修会の内容について、PTA 会員の意見も反映するよう努め、前年度の踏襲に終わらないよう工夫を重ねる。 ・PTA だより等の広報パンフレットの掲載内容を工夫し、幅広く本校教育活動の紹介に努める。
達成度	①大学との連携 年4回 外部機関との連携 年4回	② PTA 総会出席率 58% PTA 学年研修会出席率 60%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ①・2年探究科学科の課題研究に対する指導 年3回 海外研修参加生徒対象の英語で行うプレゼンテーション指導 1回 ・1年探究科学科 立山実習、科学探訪(東京方面) 2年探究科学科 校外実習(高志の国文学館・富山県総合教育センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 学年研修会では、PTA 学年委員から研修会で取り上げてほしい内容等の要望を聞き、2学年では、大学入試の変更点などについて説明を行った。 ・PTA だよりでは、学校行事やPTA 活動について、保護者、生徒、教員など様々な視点から、報告・紹介を行った。
評 価	A	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・大学側の協力により、年度当初は予定していなかった英語で行うプレゼンテーションの指導を受けることができ、生徒にとってよい刺激となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ目標を達成した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・大学やその他の外部機関との連携も十分図られていてよいと思う。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の問題はあるが、探究活動の実践成果を外部発表する機会をできるだけ確保したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、PTA 総会や PTA 学年研修会の出席率は 60%前後を推移している。さらに出席率が上がるよう開催案内等について工夫したい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)